

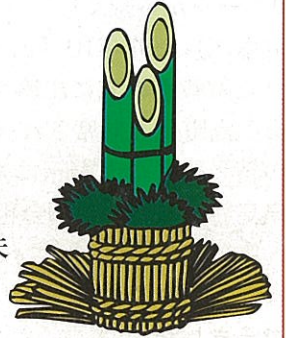


今月の内容：新年にあたって／今月のトピックス／南会津再発見（久川城跡）／今月のコラム／年男からひとこと／研修会・講習会等お知らせ

## 新年にあたって

子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

南会津農林事務所長 熊田 貞夫



**新**年明けましておめでとうございます。  
今年の十二支は「申」＝「猿」です。「申」の字形は「稲光」を意味しており、猿の仕草が似ているので「猿」が当てられたとのこと。「去る」に通じるので縁起が悪いといわれますが、厄災や悪縁が去るとなれば吉にも通じます。また、猿は日吉大社、日枝大社の祭神である山王権現の使いでもあります。

年の初めはもちろん1月ですが、「正月」といったほうがしっくりくるものがあります。

正月はもともと、農耕民族であった日本人が新しい年の豊作を願って豊穰の神である「歳神様」を家に迎え入れて祭る大切な行事でありました。歳（とし）の字は稲や穀物を表していますが、年も新しく変わることから、「年神様」や「正月様」とも言われています。

正月の支度は、神が降りてくる目印としての門松をたてたり、家の中を掃き清め、しめ縄や正月飾りをし、料理を作って歳神様を迎える準備をします。

特に、正月を代表するお節料理は、正月や節句などの大きな節目に厄除け、無病息災などを願い、季節の食べ物を供えた「御節供」に由来したもので、神に供え、お下がり（おせち）をもらい、ともに食べ楽しく過ごすためのものです。

また、正月は農耕の始まる季節でもあり、これからの重労働に耐える体力をつけるために、普段は口にすることのできないご馳走を食べ栄養をつけるとともに、日頃働きづめの女性を労働から解放する時でもありました。

お屠蘇（とろす）は忍冬、甘草などの薬草が入った健胃などに効果のある延命長寿の酒であるし、七草がゆは、ナズナ、ハコベなどの野草が入っており、正月の飲み過ぎや食べ過ぎの胃腸を整える働きがあり、ここにも長年の知恵が活かされています。

ところで、正月の「正」の字は、「一」と「止」でできており、止は人の足跡を、一の部分（ひと）は古くは口の形で集落を示し、これに向かってまっすぐ進むこと、すなわち攻撃をするという意味が古くはあったそうです。このようなことから、正月はこれから目的に向かい積極的に前進していくためのスタートの「月」であるとも言えます。

社会が、世界が、複雑に変わっていくなか、手をこまねいて居るわけにもいきません。「正」の字のように前に向かって進み、今年も明るく、そしてすばらしい年になりますように！

「又一つ年のふた取る雑煮椀」（川柳）

### 今月のトピックス

#### 南会津のお米が 献納されました

**南**会津のうりんニュース第61号（平成15年6月10日発行）で紹介いたしました、今年度の新嘗祭（いなめさい）の献納者、杉原義幸さん、喜美子さん夫妻（田島（2ページに続く）



皇居内賢所にて撮影



抜穂祭の記念写真です。

(1ページから続く)

町塩江)は、昨年10月22日、皇居内賢所参集所で開催された献穀献納式に出席されました。献納式には、室井英彦田島町長も同席され、献穀田で栽培した「ふくみらい」の精米約5合を桐箱に入れ、献納されました。その後天皇皇后両陛下との御会釈(おえしゃく)が行われました。

昨年は、天候不順にもかかわらず、杉原さんの丹精込めた栽培により見事な「ふくみらい」を収穫することができました。

また12月16日には、佐藤栄佐久福島県知事に献納の報告をし、知事からは新嘗祭に献穀米が備えられたことを証明する宮内庁からの伝達書と、知事自ら揮ごうした桐箱が手渡されました。

植祭から抜穂祭と、杉原夫妻には大変御苦労されたことと思いますが、記念に残る行事となったことと思います。

(農業振興部)



## 環境にやさしい農業検討会開催

南会津郡のトマト生産者で組織する「南郷トマト生産組合(以下 生産組合)」では、組合員全員(132名)が昨年7月2日にエコファーマーの認定を受け(南会津のうりんニュース第63号にその記事が載っています)、今年1年間の取組み実績と来年度へ向けての対応を検討するため、生産組合、町村、JA、県農林事務所の担当者が出席して、「環境にやさしい農業検討会」を南郷開発総合センターで去る12月25日に開催しました。

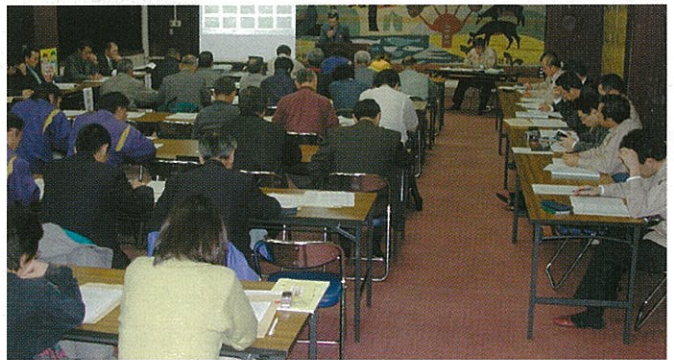
## 「水稻直播栽培シンポジウム」を開催しました

水稻直播推進と技術向上のため、水稻直播シンポジウムを開催しました。

南会津地方の水稻の直播栽培は、平成15年度には田島町、伊南村、南郷村、只見町の4町村の計55haで行われました。シンポジウムでは、15年度の直播栽培についての概要説明を行ったあと、各町村の栽培農家の代表者が、地域での取組事例、栽培技術での反省点や今後の改善点について発表しました。今年度は各実施地区とも前年比では収量が減少したものの、夏の低温と日照不足にもかかわらず移植栽培と遜色ない成績でした。出席者からは今後の取り組みと技術対策に活発な意見が出され、今後の水田農業のあり方や水稻の生産コストについて認識を新たにしました。

南会津地方は、担い手不足の深刻化、安定的な園芸産地の維持発展のため、稲作の省力化・低コスト化が求められていることから、直播栽培は必要不可欠な技術であり、平成16年度は郡内で80haを目標に推進しております。

(農業普及部)



南会津地方においては、これまでアスパラガスで1名の方が認定されているというだけで、エコファーマーに対する取組みは、他の地方より遅れていましたが、今年度、一気に132名が増えたことにより、環境にやさしい農業が大きく広がることとなりました。

検討会では、堆肥、化学農薬、化学肥料の使用について目標に対してどれだけ達成できたか、また達成できなかったことについてはその理由、来年度の改善方策について活発な意見交換が行われました。化学農薬の削減については、生物農薬の利用や農薬のローテーションで対応し、化学肥料の削減については、有機質含量の高い資材を使うなど、目標により一層近づぐために具体的な方策を取り決めました。

来年度は、新規にトマト栽培者が7名増える予定であるため、生産組合とエコファーマーの発展が、一層期待されます。

(農業普及部)

## 久川城跡

(伊南村農林課)

南郷村から伊南村へ入るとすぐ右手に「久川城跡」と書かれた白い看板が目に入ります。『新編会津風土記』や所伝によれば、古町の館に住した河原田盛次が天正17年(1589年)伊達政宗軍の来襲に備えて築城したもので、のちに蒲生氏の支城となりましたが、慶長16年(1611年)に至り廃城となりました。

東は伊南川に臨み、西は絶壁をなして、その下は滝倉沢の溪流となり、北はこれと合流した久川が麓を流れる天然の要害でありました。城門とみられる南麓の石垣構えの馬出しを始め、丘陵上の空堀、土塁およびこれらによって南北の連郭式の区画された郭曲輪は、概ね往時の姿を残しています。丘陵中央部の本丸に相当する曲輪(南西隅に稲荷神社を祀る)は東西90メートル、南北50メートルの規模を有します。

遺構の保存の良好な点、歴史的背景および築・廃城の時期が比較的明確な点など、戦国近世初頭の山城としてきわめて貴重であるとして、昭和60年県指定の史跡となっております。

現在は花木が植栽され、四季折々に村民はもちろん、観光客の目を楽しませております。特にゴールデンウィーク中の桜の美しさは知る人ぞ知る花見の名所となっております。

「久川城跡」の西側(裏側)に「久川ふれあいキャンプ場」があり、使用料無料にて開放しておりますので、お気軽にご利用ください。



真ん中の小高い丘が久川城跡です。

## 今月のコラム

### 木の値段のはなし

木は高い！そう思っている方は多いのではないのでしょうか？

では、ここで問題を出しましょう。

【問題】スギの正角材(柱材:10.5cm×10.5cm×3m)の小売業者への販売価格は、平成14年度の全国平均でいくらでしょうか？次の(1)～(3)番から選んでください。

(1) 約1,500円 (2) 約5,000円 (3) 約10,000円

さて正解は、何番でしょうか？



なんと正解は、(1)番です。

普通の家を建てる時に使われている一般的な柱材の価格はこんなに安いんです。この柱材の原料となるスギの丸太(直径15cm、長さ3m)の山元での価格は、1本当りに換算すると約360円です(注:価格は山の条件によって変わるので実際の価格とは違います)。木の価格は、昭和55年度をピークに年々下がりに続けています。さっき問題に出したスギの正角材は昭和55年度には約2,400円でしたから、この20年余で4割近くも安くなっているのです。

木は高くない！そう思っただけでしょうか。

木材は生育過程で二酸化炭素を吸収し、木製品として利用されている限り、炭素を固定し続けて、大気中に二酸化炭素を排出することはありません。地球温暖化防止のためにも木材や木製品を使ってみませんか。

(森林林業部長 船木 秀晴)

# 申年

## 年男からひとこと



新年にあたり、<sup>さる</sup>申年生まれの南会津農林事務所職員4人に今年の抱負を聞きました。  
皆様の今年の抱負はいかがでしょう？



還暦を迎えました。  
人ごとと思っていたので、現実感がわきません。若い証拠ですかね？  
再出発です。これからもよろしく願いいたします。

(所長 熊田 貞夫)



木から落ちないように、一日一日を大切に、着実な一步一步を心がけていきたいと思います。

(農業振興部 澤田 弘道)



サルにとって、やっぱり南会津の自然(やま)は肌に合うようです。今年もよろしくお願ひします

(農業普及部 飯塚 博栄)



秀吉の軍師、黒田官兵衛が中国大返しを進言したのは36歳の時。自己研鑽を積み前進する年にしたい。

(森林林業部 大関 康二)



### ～研修会・講習会等お知らせ～



内 容	月 日	場 所
①木炭の有効利用と簡易製造について	2月8日(日)	農業短期大学校 (矢吹町)
②ミニバックホウ操作基本	2月9日(月)～10日(火)	農業短期大学校 (矢吹町)
③トラクタ運転免許取得	2月16日(月)～19日(木)	農業短期大学校 (矢吹町)
④県産大豆の納豆加工	2月17日(火)	農業短期大学校 (矢吹町)
⑤いちご優良品種の特性と安定栽培技術	2月18日(水)	農業短期大学校 (矢吹町)
⑥トラクタけん引免許取得	2月23日(月)～26日(木)	農業短期大学校 (矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



あて先 〒967-0004  
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1  
南会津農林事務所 地域農林企画室  
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256  
E-mail [minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp)  
ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>  
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真  
凍みもち作り  
(只見町長浜)  
撮影：円谷

古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。